



# 理事長より新年の挨拶



明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、令和初めてのお正月を健やかに過ごしたこととお喜び申し上げます。

平成31年ご譲位なされた上皇さまは「戦争がない時代であつたことを心から安堵します」と声を震わせながら述べられました。戦後の高度成長期に生まれ育つた私に取りまして、平和であることが当たり前前の生活と暮らして参りましたが、新年早々ニュースで放映される米国とイランとの緊張関係にあらためて、「戦争のない時代」の有難さや重みを感じる令和二年のお正月でございます。一日も早く、両国はもとより周辺諸国の関係修復を願わずにはいられません。

また、依然自然災害の多い昨年でございました。北部九州、特に一昨年に続き大きな被害を被られた県中南部の復興に私たちが協力しうることを、想定外と諦めずに、日頃の危機管理に取り組まなければなりません。長野県、千葉県、静岡県、関東地方の被害甚大であつた地方の復旧をお祈りいたします。

当法人の平成の歩みを振り返りますと、平成元年四月より本格的に法人立ち上げを開始、平成二年九月に法人登記、平成三年五月施設開設。平成と共に歩んだ三十年間でございました。そして、平成が終わる最後の秋に旧悦和会を吸収合併し令和元年を迎え今に至ります。短いようで長い月日が流れたと感じておりますが、おかげ様で大きな事故もなく運営する事ができております。これも、偏にこの「かきくけこ新聞」を読んで下さっている皆様の大きなご支援を頂いておりますこと感謝に堪えません。誠にありがとうございます。

今後、令和の時代を私たち介護業界がどう活動していきますか、身の引き締まる思いでございますが、ますます行政や医療との幅広い連携が必要となるのではないのでしょうか。

昨年より委員を務めさせていただいています市の医療・介護連携プロジェクトでは「とびうめ@きたきゅう」を開始いたしました。介護保険を利用されている高齢者の方々の情報を福岡県医師会が運営する「とびうめネット」に登録してもらうことで、医療・介護施設等が情報を共有し、高齢者にとって迅速且つ適正な情報共有と支援ができる仕組み作りで、全国初の北九州方式と言えます。医療・介護連携強化を中心に地域社会の繋がりを大切に、高齢者を支えることが出来ますよう全力を尽くす福祉業界でありたい、その一翼をしっかりと担ってまいり所存でございます。

ご存じの通り介護人材不足が多く高齢者に影響を及ぼす時代となっております。働き方改革を進めるだけでは解決できない現実を受け止め、積極的に介護ロボットや外国人採用を導入していかねばなりません。董会では二名の外国人留学生をパート採用しております。二人ともとても優しく丁寧で、会話も不自由なく穏やかな笑顔で仕事をしてくれ、利用者の方の評判も上々です。今後も純粋に介護を目指す外国人人材を雇用したいと思っております。どうぞ、施設の中で見かけた際には笑顔で声をかけて頂ければ幸いです。

昨年はウェールズキャンプ地に始まるラグビーベスト8、そしてガラヴァンツ北九州のJ3優勝と嬉しいスポーツのニュースに湧きました。今年は二度目の東京五輪の開催を全国民楽しんで応援できますよう。

令和の新年、子の歳。「鼠は大黒様の使い」と亡き父が申しておりました。福の神の歳です。どうぞ、沢山の福が訪れますようお祈りさせていただきます。

理事長 曾我 満美

